（２５）　ほうれんそう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気を行い、床土を乾かす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.バシタック水和剤75、モンガリット粒剤、リゾレックス水和剤、モンカット水和剤50は、リゾクトニア菌にのみ登録がある。	播種前（種子浸漬）	7	バシタック水和剤７５
		播種時	3	モンガリット粒剤
			14	リゾレックス水和剤
		播種直後	7	モンカット水和剤５０
		播種時～子葉展開時	7	バシタック水和剤７５
2 立枯病 *Pythium aphanidermatum* *P.paroecandrum* *P.ultimum* var.*ultimum* *P.myriotylum* 株腐病 *Rhizoctonia solani*	1.高うねにし、圃場の排水を良好にする。 2.雨よけ栽培をすると被害が軽減される。 3.病株は圃場外へ持ち出し、処分する。 4.連作を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.ドロクロール、クロルピクリン錠剤は株腐病には登録が無い。 3.クロールピクリン、ドロクロールは苗立枯病にも登録がある。 4.クロールピクリン、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤、タチガレン粉剤は、根腐病（アファノマイセス菌）にも登録がある。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－	キルパー
		播種３日前～直前	32	タチガレン粉剤
		播種時	32	タチガレン液剤
3 萎凋病 *Fusarium oxysporum* f.sp.*spinaciae*	1.連作を避ける。 2.罹病株は見つけしだい抜き取り、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.ＮＣＳは潅水チューブ法（Ⅲ－14. 土壌病害虫の防除の項参照）で登録がある。 3.クロールピクリン、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤は根腐病（アファノマイセス菌）にも登録がある。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	キルパー
			－	ＮＣＳ
			－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－・－	(混)ディ・トラペックス油剤
			－・－	(混)ソイリーン
4 べと病 *Peronospora farinosa* f.sp.*spinaciae*	1.排水を良好にする。 2.窒素質肥料の過用を避け、カリ質肥料を増肥する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.予防的に散布する。	播種前	4･11	(混)ユニフォーム粒剤
		発病前から	21	ランマンフロアブル
			21	ライメイフロアブル
			40	レーバスフロアブル
			P7	アリエッティ水和剤
			M1	コサイド３０００
			M1	Ｚボルドー
			M1	ヨネポン水和剤
5 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックＤＦ
			11A	サブリナフロアブル
			15	カスケード乳剤
			18	ロムダンフロアブル
			18	マトリックフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベリマークＳＣ

ほうれんそう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
6 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.発生の多い９～10月播き栽培を避ける。 3.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.他作物からの移動により、被害を受けることが多い。 2.年２回の発生で、秋は９月中旬に成虫が出現する。	幼虫発生初期	3A 15	アグロスリン乳剤 ノーモルト乳剤
7 シロオビノメイガ	1.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5 14 15 28 28	ディアナＳＣ パダンＳＧ水溶剤 カスケード乳剤 プレバソンフロアブル５ ベリマークＳＣ
8 アブラムシ類	1.シルバーマルチをする。 2.周辺雑草の防除をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤーフロアブルはアザミウマ類にも登録がある。 2.アディオン乳剤は、ハクサイダニにも登録がある。	播種時	4A 4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	1B 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C	マラソン乳剤 アディオン乳剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 トランスフォームフロアブル
9 ミナミキイロアザミウマ	1.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 2.シルバーマルチをする。 3.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。	発生初期	3A 5 14	アグロスリン乳剤 スピノエース顆粒水和剤 パダンＳＧ水溶剤
10 ハダニ類	1.乾燥させないようにする。 2.周辺雑草を防除する。	発生初期	21A	ダニトロンフロアブル
11 コナダニ類	1.収穫残さは圃場外に持ち出し処分する。 2.未分解の有機物の使用は避け、完熟したものを使用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.コテツベイト、カスケード乳剤、アファーム乳剤はホウレンウケナガコナダニに登録がある。	播種時～２葉期	13	コテツベイト
		発生初期	6 15	アファーム乳剤 カスケード乳剤
12 ネコブセンチュウ	1.被害株の間引きを行う。 2.輪作を行う。 3.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。	播種前	1B	ラグビーＭＣ粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する